
十神刀 鬼の刀

湊川 喜雄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

十神刀 鬼の刀

【Nコード】

N0700A

【作者名】

湊川 喜雄

【あらすじ】

天地戦争が終わり時代は新時代『MEIJI』しかし時代は変わってもやはり貧困は激しいそんな最中一人旅する少年のとある一日から始まる・・・

ブログ 十神刀 (前書き)

えゝこれはかなり思い付きで書きました。いきなり同時連載ですが
あつたかく見て頂けたらなと思います。(^ | ^ ;)

ブローグ 十神刀

時は新幕末・・・第十六代將軍・徳川鷹家たかいえ率いる、大江戸幕府と新政府軍『MEIJI』との『天地戦争』が勃発、この戦争は十年間続き、血で血を洗う争いが行われていた。

そんななか『MEIJI』リーダー桂光之はこの無益な戦争を終わらせるために、刀鍛冶秋貞宗光に十本の刀を打たせ、その刀を十人の新政府軍に参加していた

十人の若き十人の少年に託された。

その十人の少年達は『十神刀』と呼ばれ戦場にて鬼神のような働きをしたという、そのおかげで『天地戦争』は最終的に新政府軍の大勝利に終わった。

そして時代は流れ時代はMEIJI01年を迎える・・・しかしその時『十神刀』の姿はどこにも無かったと言う・・・この話は一人の少年の一人旅から始まる

第一話「俺はヒロユキ」(前書き)

いよいよ本編です。至らない所だらけかと思いますがどうかよんでやって下さい

第一話「俺はヒロユキ」

ぎゅるるるゝ

「うつ腹減って死にそうだゝ・・・」

そうつぶやいた少年は木にもたれかかった。

その横には少年の背丈の倍は有ろうかという長刀が置いてある。

木にもたれかかったまま少年は動かない。

それから一時間後、一人の自転車に乗った男が少年に気付いた。男は少年に話しかけてみる

「おい！お前大丈夫か？」

少年苦しそうに

「は、腹減った。」

と言った

「えっ？腹が減ったのか？じゃあ握り飯食うか？」

男は握り飯を差し出す。

少年はその握り飯をむしゃぶりついてついつい男の手まで噛んでしまった。

「うぎゃゝゝゝ！！」

男の悲鳴が響き渡る。男は手を振り、涙目になりながら少年に聞いた。

「お前、名前なんてんだ？つーか道端で何してんだ？」

「オイラか？人に聞くまえに自分から名乗れよなゝまあ飯貰ったくらいいいけど〱オイラはヒロユキってんだ。今は、狂都きやうとに向かうために旅してんだけど、道に迷っちまって、オッサンは？」

「誰がオッサンだ俺はまだ24だ！俺の名前は雅樹、この先の村に住んでるんだ。ヒロユキ、お前まだ腹へってんだろ？よかったら家に来ねえか？」

「おおゝいくぞゝ！雅樹、オツチャンだけドイイ奴だな！」

「オツチャンは余計だゝ！ま、取り合えず自転車の後ろのれや！」

雅樹は自転車にまたがる。

ヒロユキは横に置いてあつた長刀を背中に背負い、自転車の後ろに股がる。

「んじゃゝいくぞゝ」

「おゝ」

自転車が走り出した。自転車を漕ぎながら雅樹は聞いてみた。

「なあヒロユキよゝ」

「ん？なんだゝ？」

「その背負つてる刀はお前ののかゝ？なんか長くねえ？」

ヒロユキはちよつと考えてから

「護身用だ」

と短く答えた。

「ふゝん狂都は危ないもんなゝ」

と返事を返したがすぐに次の質問した。

「なあ狂都には何しに行くんだ？今の狂都は危険だぞ。いくら新政府になったとはいえ大江戸幕府の残党も多いのに・・・」

ヒロユキはニコツと笑いながら

「ジイチャンの墓参りに行くんだよ。」

と一言だけ言った。

そつこつ話している家に雅樹の家に着いた。雅樹の家は村の中でも

有数の金持ちだった。

「まあ入れよ。」

と雅樹、ヒロユキはキョロキョロとしながら家に入ったがその瞬間、
「誰ですか！？その薄汚い子は！？」

とかん高い声が響くカチンと来た、ヒロユキは

「誰だこのババア」

と反撃！女性は

「誰がババアですって！私は雅樹の母です！」

とさらにヒステリーな声をあげる。雅樹がその間に入り二人を止める

「おいおい二人ともやめろよ！母さん、コイツはヒロユキって俺の友達だ。俺の友達の事は悪く言わないでくれ。今日はコイツ、家に泊めるから飯、用意してやってくれよな。」

母親は

「キーツ泊めるですって！！このガキを！？この大変な時に！！
もしまだ大江戸幕府の残党が襲って来たら・・・」

と言った瞬間、雅樹も語気を強める。

「かあさん！！今、そんなこと言わなくてもいいだろ！！もう部屋へ行くよ・・・行こう、ヒロユキ」

と雅樹は二階へ上がって行った。

ヒロユキもそれについていく、雅樹の部屋で取り合えず二人は腰を下ろした。雅樹は

「ヒロユキ悪かったな。普段はアソコまでヒドくないんだが・・・」

「別に気にしてねえよ、でもさっきの大江戸幕府の残党って何だ？」

「ああ・・・実は最近、大江戸幕府の残党で組まれた『神皇宗』（しんこうしゅう）とか言うまあいわゆる殺人衆団から手紙が来てな」と雅樹は机の上に置いてある手紙をヒロユキに渡す。

手紙の内容は『その方、我が神皇衆に金百万料を寄付せよ、これは命令である。守らない場合は

「天誅」

を下す。

神皇衆党首

鬼堂 流』とある。手紙を読んだヒロユキが

「警察には言ったのか？」

聞くと、

「それが警察はその思い腰を上げようとしなないんだ。その理由はその党首だ」

ヒロユキはもう一度手紙を読み

「鬼堂 流？」

「そうかどうかその男、元『十神刀』らしいんだ。お前も名前位は知っているだろ？伝説の『十神刀』その鬼神のような戦いかたは鬼そのものだったとか・・・奴は、鬼堂はその『壺の刀』・・・『壺の刀』ってのは隠密名見たい物らしくてな、奴がその『壺の刀』らしいんだ。戦争ではヒーローでも今や殺人集団だ。だがやはり強い！だから警察も恐れているのさ。ま、いざとなったら俺が命に変えてもお袋は守るよ・・・あつワリイな長々とそろそろ飯食おうぜ」

と言ったがヒロユキは悲しそうな顔をしながら雅樹に何か言おうとした瞬間

「きゃ~~~~！！」と言う雅樹の母親の叫び声が！！一体何が！？

続く

第一話「俺はヒロユキ」(後書き)

いかがでしょーか？最後はちょっと波乱を持たせてみました。二話にはバトルシーンが入ります期待していて下さい

第二話『十神刀』『壱の刀』『鬼剣術』（前書き）

初めてバトルを書いてみました。ぐだぐだですけど読んでやって下さい

第二話『十神刀』『壺の刀』『鬼剣術』

「きゃーっ!!」

と雅樹の母親が叫んだ方へ向かうと、ゴロツキ達が数人立っていた。さらに雅樹の母親がゴロツキに首を絞め挙げられている。

その中に一人綺麗な服を来た長髪の男が立っている。その男が口を開く

「ごきげんいかがかな？雅樹君。約束通り金百万両用意できたかな？」

「貴様が鬼堂か！？母さんを返せ!!」

雅樹が吠えるが、鬼堂は気にせず

「ふむ・・・どうやらまだらしい、じゃあとりあえず母親はお預かりしていきます。そゝですなゝ今から一時間後までに村の外れの丘に来て下さい。来なければこのアマの命は無い」

最後の言葉と共に放たれた殺気に雅樹は腰を抜かしてしまった。

「じゃあ皆さん行きましょうか」

と出ていこうとしたとき、ヒロユキがゴロツキの一人に

「おいババアは置いてけよ」

と言ったがその瞬間。

鬼堂の蹴りがヒロユキの顔面に命中し、ヒロユキは吹っ飛んで壁にぶちあたった。鬼堂は一言

「餓鬼は嫌いだ」

と去っていった。雅樹はヒロユキに近付き

「大丈夫か!？」

と声をかけたが、ヒロユキは

「いや油断しちまった。」

と呑気な事を言っている。雅樹は

「このままじゃ母さんがヤバイ!!!俺は今から母さんを助けに行く!危ねえからお前はここにいろ!!!いいな!?!」

と雅樹は言つと側にあつたスコップを片手に走つて行つた。ヒロユキは

「俺も・・・」

といいかけたがすでに雅樹の姿は見えなかった。ヒロユキは一人、空を見上げ呟いた。

「じいちゃん、俺の友達を助ける為にもう一度『鬼神丸』を使うよ」そう呟いてヒロユキは雅樹を追ひ闇に消えて行つた。

そのヒロユキの腕にはいつのまにか『壺』と言う時が浮かんできた。所は変わ

り村外れの岡には雅樹が一足早くついていた。

母親は縄で縛られ氣絶しているようだ。鬼堂が口を開く

「お金は？」

とニコやかに聞くが目は氷のように冷たい。雅樹は

「うおーつと」

吠え、ゴロツキ連中の中に突っ込んでいったが、相手は二十人近くもいるので雅樹は直ぐにボコボコにされてしまった。鬼堂が近付き雅樹の髪の毛を掴みあげ

「金をだすきになりました？」

ときいたが、雅樹は

「テメエに渡す金はねえ」

悪態をついた。すると鬼堂は

「ならば親子二人とも殺してあげましょう。お金は、あとで貴方のお家から探しますよ。ヒャーハツハツハ」

と笑いながら腰の刀を抜き

「フツやはり『壺の刀』の刀のサビになるですから光栄に思いなさい。」

と刀を振り上げる。

その時ビュと石がどこからか鬼堂めがけ飛んで来た。

鬼堂はそれを顔に受け頬から血が流れ出た瞬間、鬼堂の顔つきが変わる

「この私のうつくしき顔に傷をつける奴は誰だ！出てこい！殺す！
クロス！殺してやる〜」

すると、草陰から人影がでてくるヒロユキだ。

「俺だよ。このナルシスト野郎」

鬼堂はいよいよ切れる

「この餓鬼絶対殺してやる！」

雅樹はヒロユキに

「バカヤロ！何で来た！」

と怒鳴ったが、ヒロユキは

「もう大丈夫だ雅樹後はまかせろ・・・」

と優しく笑った。その姿はとも少年に見えなかった。鬼堂は

「何をごちゃごちゃ話してやがる！餓鬼！背中に背負った刀を抜け

〜！この『壱の刀』の実力見せてやる」

鬼堂が言った瞬間！ヒロユキからとてつもない殺気が放たれた。

「いつまでも『壱の刀』語ってんじゃねえぞ三下ア」

「何！！？」

鬼堂が驚く、更にヒロユキは

「『十神刀』ってのはな特別な刀を与えられた物の称号なんだよ。」

ヒロユキは背中から刀を抜く、その刀はこの夜更けにもかかわらず

みずからの力で輝きだした。

鬼堂はもはやビビりきっていた。

この年齢十五もいかぬこの少年がなぜこのような事を知っているの

か・・・鬼堂が口を開く

「ま、まさか貴様・・・」

ヒロユキが口を開く

「そう俺こそが本物の『十神刀』『壱の刀』『鬼のヒロユキ』いざ
参る」

ヒロユキが刀を構えた。鬼堂が声を張り上げた

「畜生ッ！全員で殺っちまえ！！」

「うおーっ」

ゴロツキが一斉にヒロユキにかかる。雅樹が

「ヒロユキーツ」

と叫んだ瞬間雅樹は目を疑った。

ヒロユキが一瞬消えたかと思った。瞬間ゴロツキ二十人ともが急にバツタリ倒れたのだ。

「鬼剣術『速鬼』（鬼のような速さでの連続剣術）」

ヒロユキは言う

「次はお前だ鬼堂」

「うゝゝがあゝ！」

鬼堂は大きく振り被り、渾身の一撃を加えるがそんなものが元『十神刀』に当たるわけもなくアツサリかわされる。

そしてヒロユキは上空へ高くジャンプするそのまま返す刀で鬼堂の胸に一撃入れる

「鬼剣術『鬼空剣』」

そしてヒロユキは刀を鞘にしまう。その瞬間！鬼堂の胸の傷から血が吹きだした。

「ば、馬鹿な・・・ぐふうっ」

鬼堂はその場に倒れ二度と動く事は無かった。ヒロユキは

「俺の友達に手を出す奴は許さねえ・・・」

と呟いた。しかしその目は哀しみを溢れていた。さらに

「もう二度と

「鬼剣術」

は使いたく無かったぞ・・・。」

そんなヒロユキに雅樹が近寄り

「ありがとうな、ヒロユキ。」

と言うとそこには、いつもの幼い顔のヒロユキが

「気にすんなよゝ俺達、友達だろ？」

と笑いながら言っている。雅樹は母親の方に近寄り。縄をほどき、母親を背中に背負い

「ヒロユキ帰ろうか」

と言って歩きだしたがヒロユキは

「一緒には行けねえ・・・ここでお別れだ雅樹。」

「何言つてんだよ」

と雅樹が聞くとヒロユキは

「おめえ達を助けるためとはいえ鬼堂を殺っちまった。多分、新政府の奴が調べに来るはずだ。そんな時に俺がお前に世話になっていたら、お前等にまで迷惑がかかる。だから、ここでお別れだ。」

雅樹は

「そんなこと気にするなよ！」

と言ったがその時、向こうの方から新政府軍が明かりをともしながら、

「おいそこで何をしている。」

と呼び掛けて来た。ヒロユキは

「じゃあな雅樹っ！」

と言うと素早く走り去った。軍は

「あつ誰か逃げたぞ！追えっ！」

とヒロユキを追い掛けて行く、一人たたずむ雅樹の所に、軍の幹部らしき人間が近寄り

「この男を知りませんか？」

と一枚の写真を見せる。

するとそこにはヒロユキの姿が、雅樹は驚いたが、

「知りません。ここに来た時にはもうこうなっていました。」

と言った。幹部は

「そうですか・・・この男、軍の最重要参考人でして。見掛けたらご連絡下さい。」

と言い残し、去っていった。また一人になった雅樹はココロの中で呟いた。

「がんばれよヒロユキ・・・」

と、ふと空を見上げればもう日が登りかけていた。続く

第二話『十神刀』『壺の刀』『鬼剣術』（後書き）

どうでしたか？感想もらえれば嬉しいです（＾－＾・）さて今回は色々なキーワードを出してみました。『壺の刀』『十神刀』『鬼剣術』さらに『軍の最重要参考人』ヒロユキは一体これからどうなるのか・・・またお願いします。m（――）m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0700a/>

十神刀 鬼の刀

2010年12月30日02時19分発行